

## DI 委員会トピックス

タイトル

### がん治療と漢方

【概要】高齢化社会を迎え、加齢関連疾患であるがんに罹患する人の数は年々増加し、がんは我々の身近な疾患となりつつある。近年、分子標的治療薬などの開発により、がん治療における西洋医学は大きく進歩してきたが、西洋医学を駆使しても治らないがん患者が多くいるのも事実である。また、がん治療を継続するには、患者の体力や精神状態が大きく影響するといわれており、患者のQuality of life を維持しながら治療を行うには、原疾患への治療とその副作用だけに目を向けるのではなく、緩和医療等を含めた総合医療的がん治療戦略を意識しながら、広い視野で治療を進めていく必要がある。そこで、注目した薬剤が、漢方薬である。漢方薬は、西洋医学で使用される薬剤と比較すると症状に対する効果が弱く、作用機序が不明であるといった印象がある。しかし、最近では、抗がん剤による副作用の症状緩和やがんの術後などの諸症状に対して、漢方薬の有効性に関するエビデンスの蓄積（表1,2）や作用機序の報告も多くされており、総合医療的がん治療戦略を実践するためには重要な薬剤である。今回は、がん治療や服薬指導で有用と思われる漢方薬に関する情報について紹介する。

#### 【がん患者を元気にする補剤と呼ばれる漢方薬】

全身状態を修復して心身を良好な状態に保つ漢方薬は補剤と呼ばれる。補剤としては補中益気湯、十全大補湯、人参養栄湯、真武湯、茯苓四逆湯が使用され、がん患者の状態に応じて段階的に用いられる。

#### 【がん疼痛における漢方の位置づけ】

疼痛スケールのNumeric Rating Scale (NRS)4以下、つまり、WHO 三段階ラダーの1段目の軽度疼痛に対して漢方薬が適応になるといわれている。特に、高齢者の軽度のがん性疼痛に対しては第一選択薬と使用できるとされている。

#### 【即効性が期待できる漢方薬】

芍薬甘草湯、六君子湯、抑肝散は屯用で使用しても即効性があるため、継続投与しなくても効果があるとされている。

#### 【複数の漢方薬の併用時の服用方法】

・原則として、2種類の漢方薬の併用では、性質が同じ場合は同時投与でよいが、性質が遠い場合は時間をずらして服用させる。例えば、性質の遠い漢方薬のAとBを服用する場合は、Aを朝食前と夕食前、Bを昼食前と寝る前と交互に投与する。

#### 【胃瘻、栄養チューブからの漢方薬の投与方法】

・1包(エキス製剤)を20mL程度の温湯で溶解し、10分程放置、全て溶ける（薬剤により、溶解性に差がある）。チューブを介して漢方薬を注入後は、チューブを温湯5mL程度でフラッシュを行う。

#### 【注意が必要な副作用】

漢方服用時の過敏反応には、気道粘膜のアレルギー反応、皮疹、薬剤性の肺炎、肝障害等がある。特に、黄芩では空咳・息切れ・発熱、甘草では偽アルドステロン症：頭痛・肩こり・浮腫・体重増加、麻黄や附子では動悸・ほてり・頭痛・心不全等の症状に注意が必要である。漢方薬の成分に応じて、肝機能検査や体重・血圧の測定、副作用のモニタリングを行うことが重要である。

○最近のトピックス 【化学療法による口内炎に対する半夏瀉心湯の有効性について】

・昨年、FOLFOXまたはFOLFIRI療法を施行開始7-10日後に口内炎が認められた進行大腸がん患者に、口内炎の治療として半夏瀉心湯2.5gを水50mLに溶解した薬液を10秒間含嗽(毎食後,1日3回,7日間)させ、潰瘍形成を伴う場合は薬液を綿球で患部に塗布し、含嗽後30分は飲食禁止とし、その他の口腔内治療は併用しない条件で治療前と後で口内炎のGradeの評価を行った結果が報告された。結果は、含嗽コンプライアンスは良好で、治療開始前の口内炎のGradeから増悪する患者はなく、症状改善率は92.8%と良好であったとのことである。この結果は比較試験での検討がされていないため、今後の報告が待たれるところである。

表1. 抗がん剤別 漢方薬の処方内容

抗がん剤	症状	漢方処方
プラチナ製剤 シスプラチン、オキサリプラチン	手足の痺れ、冷感	牛車腎気丸、芍薬甘草湯
	嘔気、嘔吐、食欲不振	六君子湯
	腎障害	柴苓湯
タキサン系 パクリタキセル	筋痙攣、筋肉痛	牛車腎気丸、芍薬甘草湯
イリノテカン	下痢	半夏瀉心湯
ドキシソビシン	口内炎	半夏瀉心湯
カベシタビン	手足症候群	越婢加朮湯、四物湯
スニチニブ	手足症候群	柴苓湯、桂枝茯苓丸
フルオロウラシル	皮膚炎	加味逍遙散
セツキシマブ	食欲不振、爪囲炎	十全大補湯

表2. 症状別 漢方薬の処方内容

症状	漢方処方
腸管癒着やがん性腹膜炎によるイレウス	大建中湯
肺がん術後の咳 頭頸部の放射線治療後の唾液分泌低下	麦門冬湯
消化器がん術後やがん化学療法における細胞性免疫系機能の低下	十全大補湯、補中益気湯、小柴胡湯
がん化学療法時の全身倦怠感、 食欲不振、悪心、嘔吐	十全大補湯、補中益気湯、六君子湯、五苓散
認知症、せん妄	抑肝散
婦人科がんにおける抗がん剤投与後の 血小板減少、好酸球増多	加味帰脾湯、人参養栄湯、小柴胡湯

我々薬剤師は、西洋医学を駆使しても改善が困難と思われる抗がん剤の副作用やがん治療時の精神状態、疼痛・栄養状態を有する患者に対して、「次の一手」としての漢方薬を医療の現場で提案することで、チーム医療や患者のQOLの改善に貢献できるものと考えます。特に、高齢化の進む宮崎において、漢方薬の役割は大きく、患者をサポートできる有効な手段のひとつとして期待できます。

【参考】

- ・ Science of Kampo Medicine 漢方医学 Vol. 34, No. 1, 2010
- ・ 薬局, Vol. 62, No. 11, 2011 南山堂
- ・ 第48回 日本癌治療学会学術集会シンポジウム 29 がん化学療法の副作用対策としての漢方治療
- ・ がん治療における漢方の役割 (患者むけパンフレット) 株式会社ツムラ